

knitting the road

— 編まれ続けるミュージアムロード —

コンセプト

ミュージアムロードの舗装をところどころ変えることで、道の使い方そのものを豊かにすることを提案します。少し硬い場所、ざらっとした場所、音の変わる場所など、素材の違いが歩く速さや立ち止まり方を自然に変え、子どもが遊び、大人が会話を交わし、通り過ぎる人も含めた多様な過ごし方が生まれます。通りの中ほどにある灘駅前広場は、人の動きや時間が重なり合う「結び目」として、さまざまな舗装が集まる象徴的な場所とします。この道は一度つくって終わるものではなく、使われ、直され、時代とともに少しずつ姿を変えながら、市民一人ひとりの記憶や日常を重ね、神戸の文化として編まれ続けていく道です。

私たちが目指す”通り”の姿

① 歩くこと自体が文化体験になる道をつくる

道を通るだけで、神戸らしい空気やリズムを自然に感じられる空間をつくります。

② 市民の使い方によって風景が育つ公共空間にする

決めすぎず、使われ方に委ねることで、時間とともに表情が重なる道を目指します。

③ 観光のためだけでなく、市民の誇りとなる道をつくる

観光のためだけでなく、住んでいる人が「自分たちの道」と感じられる場所にします。

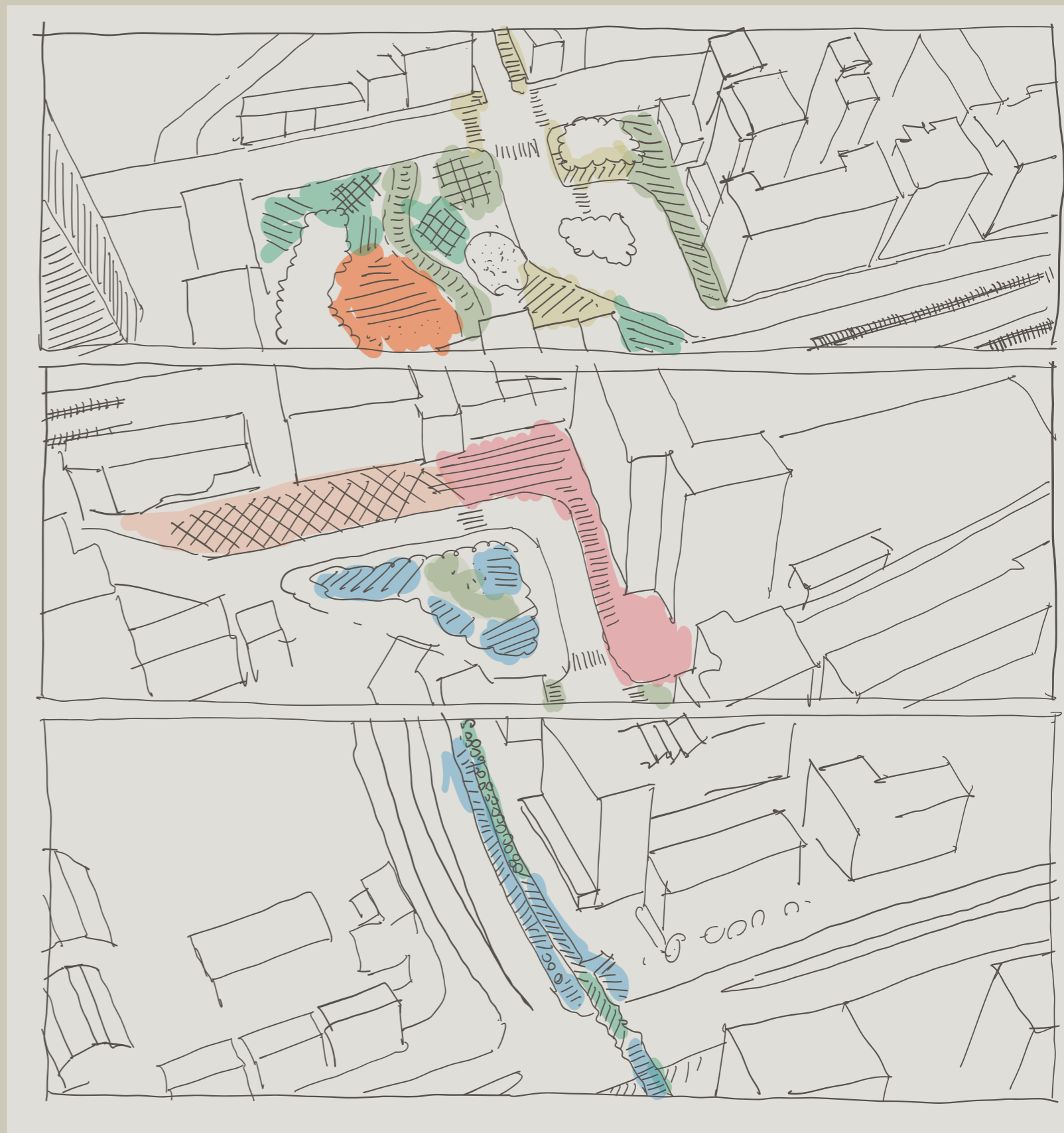
背景：なぜ舗装なのか

舗装は、誰もが毎日触れる最も身近な公共空間です。建物を変えなくても、素材や構成を工夫することで、人の動きや滞在の仕方をやさしく変えることができると考えます。

① 誰もが毎日使う、最も身近なデザイン対象

② 建物を変えずに使い方と印象を変えられる

③ 時間とともに更新できる公共のメディア



knitting the road

— 編まれ続けるミュージアムロード —

デザイン手法

「編む」という考え方

ミュージアムロードを、完成された道としてではなく、市民の使い方や時間の積み重ねによって育っていく道として捉えます。舗装を細かな単位に分け、編み目のように組み合わせることで、多様な風景を生み出します。

①均一につくるのではなく「編みながら育てる道」として考える

すべてを同じ素材や仕上げにせず、場所ごとに表情の違いをつくることで、歩き方や過ごし方に自然な変化を生み出します。

②舗装の一つ一つを編み目のような単位として組み合わせる

舗装の一つ一つを小さな単位として考え、組み合わせ方によって道全体のリズムや密度を調整します。

③異なる素材や表情のつなぎ目を、隠さずそのまま見せる

異なる素材が出会う境目を消さずに見せることで、場所の切り替わりや道の成り立ちが感じられるようにします。

④補修や交換を「編み直し」として前向きに捉える

直した跡を消さず、時間の重なりとして残すことで、道が使われ続けていることを伝えます。

舗装による行動の変化

舗装がふるまいをつくる

舗装の質感や硬さ、音の違いは、「歩く」「立ち止まる」「座る」といった行動を自然に促すアフォーダンスとして人に働きかけます。人は指示されることなく、その感覚に導かれて歩き方や過ごし方を選び、道に多様な使われ方が生まれます。

①硬く滑らかな舗装：通り抜け、歩行が中心

歩行や通り抜けが中心となり、人の流れがスムーズにつながる場所をつくります。

②少しざらついた舗装：立ち止まり、会話

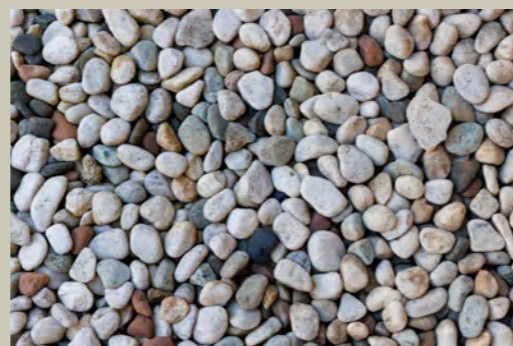
自然と歩く速さが落ち、立ち止まったり会話が生まれたりするきっかけになります。

③音の変わる舗装：子どもが遊ぶ、気づきが生まれる

足音や触感の違いが楽しく、子どもが遊びたくなる場所を生み出します。

④境目が見える舗装：場所の切り替わりを感じる

舗装の切り替わりが、空間や気分の変化をやさしく知らせます。



knitting the road

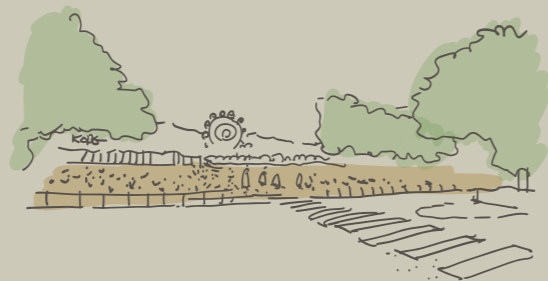
— 編まれ続けるミュージアムロード —

デザインの一例

ミュージアムロードの色々な部分に、“色々な舗装”を導入し、道全体の印象と部分ごとのユニークな体験を作ります。ユニークな舗装が点となり、それらが連なることで、一つの線となります。

1. 音が変わる舗装

踏むとコツン、シャリッと音が変わる素材。子どもが踏みたくなり、大人は無意識に歩調を緩める。



2. 少し柔らかい舗装

ゴムや樹脂混合でわずかに沈む。長く立ち止まりやすく、待ち合わせや会話が生まれる。



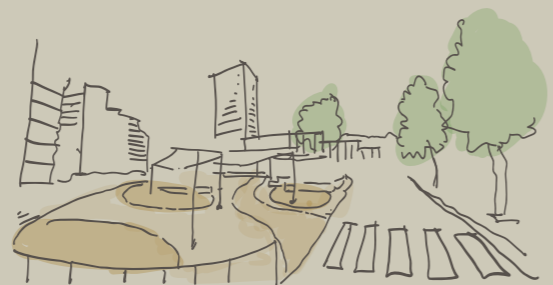
3. 目地が広い舗装

石と石の間に広めの目地。線をまたぐ、数えるなど遊びのアフォーダンスが生まれる。



4. 温度を感じる舗装

日向と日陰で触感が違う石材。人が自然と集まる場所、避ける場所ができる。



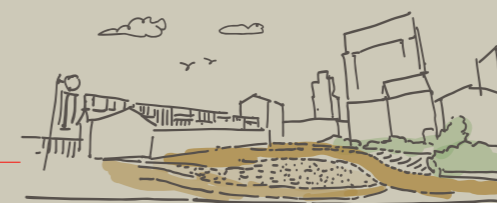
5. 座れそうな高さの縁をもつ舗装

段差5~15cmの縁取り。「座ってもいいかも」という曖昧さが滞在を促す。



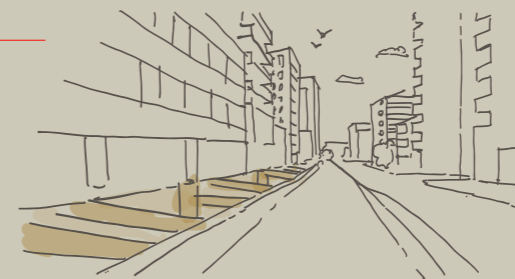
6. 粗さが変わる舗装

つるつとした部分とざらつとした部分。歩く速さが変わり、流れと滞留が分かれる。



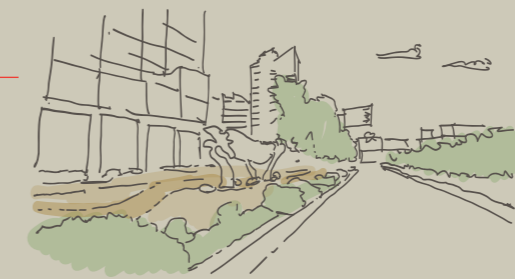
7. 模様が連続する舗装

編み目のような反復パターン。道の一体感をつくり、歩くリズムを生む。



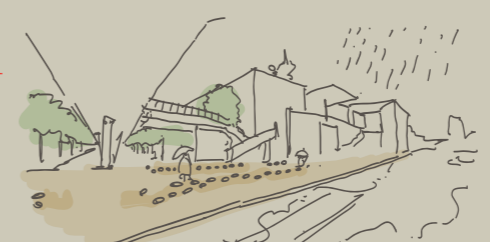
8. 色味がにじむ舗装

単色ではなく、少し揺らぎのある色。写真を撮りたくなる、立ち止まるきっかけになる。



9. 足跡が残りそうな舗装

雨で濃淡が変わる、乾くと消える。一時的な「誰かの気配」が道に重なる。



10. 修復の痕跡が見える舗装

直した跡をあえて隠さない。道が使われ、育っていることを感じさせる。

